

令和4年度第2回高松市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和5年2月9日(木) 午前10時00分～午後11時30分

2 場 所 高松市防災合同庁舎3階 301会議室

3 出席者	高松市長	大西 秀人
	高松市教育委員会教育長	小柳 和代
	高松市教育委員会委員(教育長職務代理者)	吉澤 潔
	高松市教育委員会委員	葛西 優子
	高松市教育委員会委員	関元 盛夫
	高松市教育委員会委員	小方 朋子
	高松市教育委員会委員	富家 佐也加

4 事務局

(教育委員会)

教育局長	森田 素子
教育局次長総務課長事務取扱	長谷山 隆義
教育局次長生涯学習課長事務取扱	合田 紀子
学校教育課長	山地 芳樹
保健体育課長	岩佐 孝
教育局総務課長補佐	香川 昭子
保健体育課長補佐	後藤 正文
教育局総務課総務係長	別所 里美
教育局総務課総務係主事	道久 拓元
教育局総務課総務係主事	大橋 久良々

(市民政策局)

市民政策局長	上枝 直樹
市民政策局次長	田中 照敏
政策課長補佐	吉田 幸弘
政策課企画担当課長補佐	宮武 伸宇
政策課企画員	前場 勇人

(創造都市推進局)

創造都市推進局長	中川 昌之
文化・観光・スポーツ部長文化芸術振興課長事務取扱	次田 吉治
スポーツ振興課長	柴田 憲志

5 傍聴人 0人

6 協議事項

(1) 部活動の地域移行について

7 議事の経過

【開会】

【市長挨拶】

○ 市 長

本日は、今年度第2回目の総合教育会議となるが、今大きな話題となっている「部活動の地域移行」について協議を行うことにしている。

それでは、「部活動の地域移行」について、本市の現状と考え方等について保健体育課長、スポーツ振興課長から説明をお願い申しあげる。

【議題（1）部活動の地域移行】

○ 事 務 局（保健体育課長、スポーツ振興課長）

（「部活動の地域移行について」説明。）

○ 市 長

ただ今の説明を受け、御意見、御質問等はあるか。

○ 委 員

部活動の地域移行については、本市においても様々な問題が残されていることがよく分かった。保護者の立場からすると、部活動の地域移行を実施する場合、費用負担や送迎への配慮が必要になると考える。これまで人数が少なくてやりたいスポーツができなかった子どもたちが、部活動の地域移行をすることによってできるようになる面もあるのでとても良いと思う。しかし、活動場所が学校ではなくなることによって、参加できなくなる子どもたちが生じることも考えられるので、様々な立場の子どもたちへの配慮が必要だと思った。運営主体が学校ではなくなる場合も考えられ、必ずしも教育の専門家が部活動を行うわけではなくなるので、教育的配慮ができる体制を整えることも必要であると思う。

○ 委 員

部活動の地域移行は非常に良いことだと思うが、本市の場合、運営方法や人材など、様々な条件がそろっている地域が少なく、大半の地域は実施が難しいのではないかと。

指導要領において、部活動は学校教育の一環となっているので、教職員が運営するのが一番良い。部活動を地域へ移行する期間の間だけでも、教職員を増員するという考えがあっても良いのではないかと思う。

○ 市 長

教職員を増員するとなると、香川県教育委員会などとの関係が出てくると思うが、一時的に関わる人を増やすという対策が必要だという意見であった。

○ 委 員

この問題は、別々の課題が1つになって論じられていることが物事を非常に分かりにくくしている。部活動が子どもたちの人間形成に役に立ち、教育的意義が非常に大きいのであれば、なぜ課外活動になっているのか。教育の一環として、正規の学習指導要領の中に入れるべきではないか。部活動が課外活動となっているから、教員の働き方改革の話になるのではないかと思う。そうでありながら、部活動で生徒が良い成績をあげれば、顧問の先生は評価され、生徒も高校の推薦が検討できるといったこともある。

また、少子化を問題としているのはおかしいと思う。子どもの人数が少なくなれば、部活動の規模が小さくなり、教員は子どもの指導がしやすくなるはずである。

更に、地域のスポーツ振興は部活動と切り離して考えるべきだと思う。地域のスポーツ振興は地域の方々やスポーツの指導者の方々が、子どもの部から成人の部まで、それぞれステップアップできるように活動を進めており、それを市が援助することは別の問題だと思う。

また、牟礼・庵治地域での合同部活動のモデル事業について、教員が指導者となった場合に、兼職申請を行う必要があるとされている。2つのチームを1つにして先生が教える場合は、兼職許可を得なければならないが、1つのチームで先生が休日に教える、これまで通りの方法で行う場合は兼職許可がいらないのはなぜなのか。学校の先生が地域スポーツの指導者として参加するのであれば、許可は必要だが、部活動を合同で行うのであれば許可は必要ないと思う。こういった様々な矛盾が1つになり、問題がややこしくなっているので、それぞれ整理が必要ではないかと思う。

○ 事務局（保健体育課長）

牟礼・庵治地域での合同部活動のモデル事業において、教員の兼職申請については、部活動と捉える場合、兼職申請は必要ないが、今回の事業の場合は、地域の活動として、牟礼中学校から2人、庵治中学校から1人の合計3人の先生がバレーボールの地域指導者の立場で指導しているため、兼職申請している。

様々な矛盾点があるが、国も具体的な方針を示していない現状がある。香川県とも連携を取っているが、整理しなければならないことがたくさんあり、事務局としてもそのような部分を踏まえて、来年度の活動に生かしていきたいと思っている。

○ 市 長

そもそも部活動の地域移行と言いながら、地域移行すると部活動ではなくなるという取扱いになっている。そのあたりの国の方針が明確になっていない。どこを目指しているのかははっきりしないことが一番大きな課題だと思っている。

○ 委 員

生徒が部活動の地域移行についてどのように感じているのかということが一番興味深い。部活動の地域移行については、生徒、保護者、先生方、受け皿となる地域など、様々なところに課題があるのではないかと思う。一番大切なのは、部活動は、学校教育の一環になっていることで、学校の部活動だから保護者は安心感があるということと、成長期にある子どもたちの心と体の発達に対する影響についても考えなければならないと思う。

先ほど、牟礼・庵治地域での合同部活動のモデル事業の検証という話があったが、良かった点と課題について教えていただきたい。また、総合型地域スポーツクラブが地域の受け皿となる可能性があるとのことだが、どのような取り組みをされているのか教えてほしい。

○ 事務局（保健体育課長）

牟礼・庵治地域での合同部活動のモデル事業の検証におけるメリットとデメリットについてであるが、バレーボールを専門としている指導者が3人おり、1人が全体的な指導、もう1人は細かい点をかみ砕いて説明し、3人目は手本としてやって見せて、実際に生徒と一緒にプレーして指導した。生徒の吸収もよく、保護者にも好評だった。指導者が増えたことによって、いろいろな方面から子どもたちを指導することができたことが良かった。

2つ目は、一つの中学校であると他の部活動と活動場所が重なってしまうこともあるが、基本的に使用している牟礼中学校の体育館が使用できない時は、庵治中学校の体育館を使用することで生徒の練習時間を確保することができた。

3つ目は、ゲーム形式の練習ができるようになり、実戦に即したフォーメーションプレイができるようになったことである。地区総体で勝つこともできて、生徒も喜んでいと聞いている。

デメリットの1点目は、現地集合となっているため、保護者の送迎が必要となり、保護者負担が増えていることである。

2点目は、平日の練習の時間確保が難しい点である。土日は集まって練習ができるが、平日は日没の時間を終了時間としているので、例えば午後4時に授業が終了して、部活動の終了時間が午後5時となると、活動時間が1時間になってしまう。

3点目は、用具や場所についてお金がかかる点である。今は学校で部費から消耗品などを購入しているが、学校外の活動となると、受益者負担となり、お金の問題が発生するのではないかと思う。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

総合型地域スポーツクラブの活動の状況と可能性についてだが、今回の資料を作成するに当たり、12団体にそれぞれ状況を確認した。部活動の地域移行について情報を収集している団体もあれば、最初から「難しい」「検討もできない」としている団体もある。活動場所や種目、指導者の数、自主運営という中で費用負担が発生する総合型地域スポーツクラブとして活動しているという点、現在加入している中学生たちは部活動の地域移行という形で加入しているわけではないので、その処遇についてなどが課題となっている。全体的には、懸案事項はあるが、子どもたちのために地域で子どもたちを受け入れたいという思いは持っている。

具体的には、下笠居地区のファイブカラーズが、子どもたちのために率先して活動している。現在聞き取りしている中では、12月の平日にTASS（高松アドバイザースポーツシステム）に依頼をして、講師派遣をしてもらった実例があるとのことである。費用は現在、無料としているが、今後は費用が必要になる可能性もある。いずれにしても、情報として確実なものを持っていない中で、子どもたちのために何とかしたいということがあったようである。

○ 委員

部活動は学習指導要領では「その他」の取扱いとなっているが、子どもたちの教育上の影響力はものすごく大きい。学生にどういう先生になりたいのか、将来どういう先生を目指すのか、どういう人が恩師なのかと聞くと、部活の顧問の先生と、かなりの人数が回答する。運動部に限らず文化部においても技術的な指導のみならず、人としての在り方、生き方、マナーなどを部活動で学んだという話をよく聞く。これまでの部活動が担ってきた役割や成果、実績が余りにも大きい。そのため、急に部活動を変えるのはなかなか難しいと思っている。

地域の資源の掘り起こしは、とても重要なことで、今しっかり活動されているスポーツクラブや団体に手伝っていただき、地域移行を実行していくことは大事だと思うが、急いでやると事故や質・教育的な配慮の部分において心配な部分がある。高松市としては中学校が中心となるわけだが、義務教育の間なので、学校の中という安心感についても考慮し、無理をせず受け皿を探していくことが必要だと思った。

タイトルが「部活動の地域移行」となっており、このタイトルであると、どのようにして地域移行を行うかを考えることが中心となってしまうが、持続可能な部活動をどうするか、という様に変えると、随分と議論がしやすくなるのではないかと思う。

○ 事務局（保健体育課長）

部活の顧問は、技術指導もちろん、礼儀であったりマナーであったりを大事にして指導をしてきている。すぐに地域移行することは難しいが、それを踏まえ、休日の部活動と平日の部活動の連携を考えて進めていかなければならない。今まで学校の部活動が大事にしてきた部分を踏まえながら、来年度、再来年度の地域移行を進めていく。また、地域の総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会と連携・協議しながら進めていくことを検討している。

○ 教 育 長

部活動の持続可能な方法について考えた方がよいという意見をいただいたが、部活動の地域移行を考える時に、中学生とスポーツの在り方について同時に考えなければならない。中学生がスポーツというと、部活動と直結してしまっており、子どもがスポーツに親しめる場面が、水泳やテニス等を除いて、学校の部活動のみのような形になっていることが多い。部活動の地域移行の話題が出たとき、子どもたちも保護者も、今、平日も土日も部活を見てくれている顧問の先生が、土日は見てくれなくなるのならば、誰が見てくれるのだろうと考えた人が多かっただろうと思う。

しかし、国の説明を聞くところによると、今ある部活動の枠組みに加えて、例えば、土日の部活動を今ある部活動と切り離して考えるというのも1つの考え方だとのことである。例えば、子どもたちの中には、自分とスポーツの関係性を捉えたときに、毎日練習して試合に勝つことが目的とする子どももいれば、長く楽しくスポーツに接していたい、ダンスや体操をしたい、体力トレーニングを継続したいという子どもたちもいる。長く楽しくスポーツに接していたい子どもたちの土日のスポーツの受け皿は今までは存在しなかったが、今後重要になってくると考えている。そうしたときに、総合型地域スポーツクラブの中に中学生が楽しく続けられるような種目が設けられると、子どもたちも今までの考え方に加え、選択の幅が広がるのではないかと思っている。

いずれにしても、現在22校の中学校で、200余りある部活動の指導者を全て地域に移行するとなると200人を超える指導者が必要になるので、今年度は合同部活動という形でモデル事業を展開したが、来年度は総合型地域スポーツクラブと連携を図りながら、楽しく取り組めるような休日のスポーツの在り方を検討し、選択肢を増やし、視野を広げた上で、検討委員会の皆様の意見も鑑みながら、こういったモデル事業を展開していくのか、またモデル事業を展開した上でわかるメリットやデメリットを整理しながら、一番大切な子どもたちの気持ち、子どもたちがどういうスポーツをしたいのかをしっかりと把握した上で、保護者の方々の意見、また教職員の意見も聞きながら、慎重に進めていくべきだと思う。

部活動の地域移行について、様々な懸案事項が出てくる中で、国が本年1月30日に公立学校教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業についての手引きを送付したことから考えても、今は、山積みとなっている検討事項を一つ一つクリアしてい

なければならない時期なのだと感じている。皆様の御意見もいただきながら、また市長部局のスポーツ関係の各課とも連携しながら進めていきたい。

○ 市 長

当初は、国の方針が、先生方の働き方改革にかなりのウエイトを占めていた。土日ぐらいいは先生方の部活動の負担を軽減しよう、そして地域に移行して、やってもらおうということが国の方針だった。しかし、そもそも重い負担がかかりながらも先生が指導者を担っていて、人口減少で地域がだんだん衰退している中で、地域に受け皿があるという前提自体に疑問を持つ。そのため、うまくいかないのは当たり前で、もう一度仕切り直しが必要である。

将来、それぞれの最終的な姿、学校の部活動について、どういう姿が望ましいのかについて考え、今のままできるのならそれが良いが、今のままだと非常に課題が多すぎるので、変えなければならない。変えていく場合に、どういう姿が一番いいのかの明確にした上でないと、モデル事業をいくらやっても先に進まないと思う。その際、その方法が地域ごとに違って良いのか、あるいは、ある程度統一的な、高松市全体の方針を決めて、その枠組みの中でそれぞれの地域の部活動の現状に合った形で無理のないようにしていくのか。そして、それを整理する上で大事なものは、子どもたちの意向が十分くみ取れる、あるいは子どもたちが部活動によって成長できるような仕組みであることである。地域である程度主体的に話し合っていたきながら、それを教育委員会がフォローし、指導して、将来像を描いていくことが必要だと思っている。

すぐに、最終的な休日の地域クラブ活動の形にすることは難しいので、まずは部活動の地域連携から始めていくことになる。いずれにしても地域連携ということで、地域と十分話し合った上で、実際その地域にどの程度の受け皿があるのか、あるいは指導者が確保できるのかどうかを見極めながら、最終的に地域移行すべきなのかどうか、移行しないでそれぞれの部活動を協働でやるのか、そこで先ほど出た持続可能な形で進めていくという結論が出てもいいのかなと思っている。そのあたりを、具体的に話し合っていないと、今のまま、国のあいまいな方針のもとでモデル事業を今年度やりますといっても、何のためのモデル事業かということが明確でないと、次の段階に進めないのではないかと非常に危惧している。事務局としてどう考えているか。

○ 事務局（保健体育課長）

令和5年度につきましては、今のモデル事業を拡充や、市の方針が決まった後、保護者と子どもたち、そして学校の先生も含めて、地域部活動の意識調査、アンケート等をしたいと思っている。今子どもたちが何を望んでいるのか、現在中学生の子どもを持つ保護者の方々に意見を伺うアンケートを実施し、それを踏まえて、令和5年度の事業を進め、令和6年度の事業につなげていきたい。

本年1月に行ったPTA連絡協議会との意見交換会で、情報が少ないという御意見

をいただいたので、地域部活動についての高松市の取組や国の流れなどを、機会を捉えて各学校に情報を流し、香川県とも連携していかなければならないと思っている。

今、御意見いただいたことや最終目標を踏まえながら、令和5年度、一定期間、時間が必要かもしれないが進めていければよいと思う。

○ 委 員

部活動の地域移行と直接関係があるかはわからないが、先ほど話があったPTA連絡協議会との意見交換会の中で、話題に上がったのが高校進学における内申書についてである。部活動への参加について内申書に書かれ、高校進学の際に有利なのではないかという理解をしている保護者が多くいた。しかし、子どもたちは部活動以外にも頑張っていることがたくさんあるので、地域部活動への移行と内申書の取扱いについて保護者にきちんと説明をしていただきたいと思う。

地域で様々なスポーツや文化芸術活動に取り組んでいる方々がいるが、その方々と、小学生の時は地域活動として交流があるが、中学校に行くようになるとそのような交流が無くなってしまう。小学校の時に、学校での活動ではなく地域でスポーツに取り組んできたけれど、中学校へ行ったら部活動に入らなければならないという誤った意識があることで、地域でのスポーツの取組が続かず、途切れてしまうことがある。部活動の地域移行と併せて、小学校から継続的に取り組める受け皿を地域に求めてもよいのではないかと。部活動ばかりではなくて、ボランティア活動に携わることのメリットを示すこともよいのではないかと。このような地域のつながりをつくるということは、市長がいつもおっしゃっているシビックプライドの醸成につながると思う。

○ 市 長

内申書について何かあるか。

○ 教 育 長

公立高校の入試については、香川県公立高等学校入学者選抜実施細目に基づいて行われる。先ほどの話の中にあった内申書というのは、おそらく、この細目に示されている調査書と呼ばれる書類のことである。こちらについて、部活動がどのように記載されるのか学校教育課から説明をお願いします。

○ 事務局（学校教育課長）

調査書についてであります。部活動への加入の有無だけではなく、進路については総合的に判断しているというのが本県の状況だと思っている。部活動はもとより、学校内外での活動や生徒に関する優れた成果、取組について調査書に記載することとなっている。調査書には部活動だけでなく、日常の学校生活や学習についても記載される。県立学校の場合は入学選抜においては総合的に判断されるということである。また、香

川島の場合は自己推薦選抜があるが、その中にはボランティア活動について書かせる学校や部活動について書かせる学校、生徒会活動について書かせる学校もある。部活動が生徒自身をPRするための1つの視点になっており、部活動を含めて総合的に判断しているといえる。

○ 委 員

部活動において、生徒は日本中学校体育連盟が主催する大会などを目標に活動している。本市の地域移行のイメージからすると、いくつかの中学校が土日に集まって、地域のクラブ活動として活動するようであるが、このチームも大会に出られるようにすべきではないか。中学校単位で出ないと大会に出られないというのはおかしいと思う。

しかし、部活動の中には友達と一緒に、あるいは学年を超えて、スポーツを純粋に楽しみたい生徒もいるだろうし、逆にスポーツを突き詰めたい生徒もいて、そういう生徒は部活動の後、または土日に専門のクラブへ行く。そうすると、平日2時間程度やっている部活動の時間がもったいない、その時間、専門のクラブで練習したいという生徒も出てくる。中には、部活動自体が時間の無駄だ、その時間は勉強したい、塾に行きたいという子どももいると思う。だから、部活動を、参加してもしなくてもよい学校の授業として割り切って考えて、スポーツを突き詰めたい人には土日のクラブ活動を勧めたり、平日も部活動でなくクラブチームに参加することも許可したりといった、多様性を認める形にすればよいと思う。

無理に地域移行をするのではなく、もう一度それぞれの学校での部活動というものを見直すべきだと思う。学校にサッカーの専門の先生がいなければ、その学校にはサッカー部はなくてよいのではないかと、全ての学校に無理に作ろうとするから、専門外の先生がしなくてはならなくなるのではないかと。サッカーの指導者がいないのでサッカー部はありませんとなっても、仕方がないと思う。その分、地域のクラブ活動を積極的に後押しすればよいと思う。

○ 委 員

中学生自身から「中学生は部活動に入らなければいけないのではないか」という話を聞いたことがある。今聞いた話では、現在でも部活動に関わらず地域での多様な活動も評価してもらえるシステムになっているとのことなので、このことを生徒や保護者たちが容易に認識できるような形で公開したり、学校で、必ずしも部活動にこだわらなくても、地域での様々な活動を続けてくれたらよいと入学時点で説明したりするなどの活動が必要だと感じた。

○ 市 長

部活動の地域移行については、国の方から突然課題として出てきたようなイメージ

があり、現在では国の方針がややトーンダウンしてきたところである。国の方針が十分に定まっていない中で、高松市が独自の方針を定めて進めていくのもなかなか難しい。まずは、令和6年度以降の地域移行の動きに向けて、令和5年度については課題や問題点を洗い出していくことになるだろうと思う。そのためには教育局と創造都市推進局が連携しながら、本市の実情に合った形の取組とはどんな形なのかを、地域ごとに見極めて議論し、モデル事業を進めて課題を整理していく、まずはそこからだと思う。

何よりも大事なことだが、子どもたちのことを一番に考えてほしい。子どもたちにとって部活動の在り方、スポーツ振興の在り方、どういった形が一番良いのか、それがどういう形であればその地域で持続可能な形でできるのかといったことを考えて、子どもたちが困ることのないように今後取り組んでほしいと思う。

この問題は、今後とも様々な議論をしていかなければならないと思うが、教育委員会だけでなく、創造都市推進局と十分に協議しながら、子どもたち・地域・保護者等との十分な情報共有のための情報発信もしながら、議論を進めてほしい。